

こどもの読書についてのアンケート 集計結果

令和3年8月

教育委員会事務局江東図書館

目次

1 目的	1
2 種類と対象	1
3 実施方法	1
4 実施時期	1
5 配布数と回収結果	1
6 調査項目	2
7 集計結果の概要	3
8 集計結果の見方	4
9 集計結果		
①こども自身に関する調査	5
②子育て関連施設への調査	22

1 目的

本調査は、保育園や幼稚園に通園している乳幼児の保護者、小中高校生、子育て関連施設を対象に、日常の読書活動や支援の状況について把握し、「第三次江東区こども読書活動推進計画」策定に活用することを目的とする。

2 種類と対象

種類	調査対象
①こども自身に関する調査	保育園や幼稚園に通園中の乳幼児の保護者、小学2年生、小学5年生、中学2年生、高校2年生
②子育て関連施設への調査	保育園や幼稚園、子ども家庭支援センター、児童館、きッズクラブ、障害児通所支援施設、青少年交流プラザ

3 実施方法

- ①こども自身に関する調査：調査票の園・学校への配付・回収
- ②子育て関連施設への調査：調査票の郵送配布・回収

4 実施時期

令和3年6月～7月

5 配布数と回収結果

種類	配布数	回収数	回収率
①こども自身に関する調査	2,218 人	1,932人	87.1%
②子育て関連施設への調査	191施設	146施設	76.4%

6 調査項目

①こども自身に関する調査

- 家庭での読書の状況(乳幼児のみ)
- 本を読む場所、入手する場所
- パソコンやタブレット等での読書
- 1か月の読書状況(1冊も読んでいないものはその理由)
- 学校の図書室や区立図書館の利用状況
- 本を選ぶ基準
- 1日あたりの読書時間
- 同世代の人々が読書をするために必要なこと(中高生のみ)
- 好きな本のジャンル

②子育て関連施設への調査

- 図書室や図書コーナーの有無及び取り扱っている本の種類
- 図書室や図書コーナーの利用状況
- 本の収集方法
- 所蔵している本の貸出の有無
- 施設内での読書にかかわる活動(読み聞かせ等)の有無
- 区立図書館の団体向けサービスに対する要望

7 集計結果の概要

①こども自身に関する調査

(1)乳幼児

- 保護者の95%以上が、自分のこどもが本(絵本)を「好き」または「どちらかといえば好き」と回答している。
- 家庭での読み聞かせの実施状況は、前回調査(平成27年度実施)時より頻繁に行われている。また、読み聞かせは主に母親が実施している。
- 毎週1日以上読書をしている保護者は全体の1/4程度であった。
- 同じ時間に家族で一緒に行う読書については、半数以上の家庭が「あまりしない」または「まったくしない」と回答している。

(2)児童・生徒(小学2年生、小学5年生、中学2年生、高校2年生)

- 本を読む場所は、小学生が様々な場所を回答しているのに対し、中学生は「家」と「教室」、高校生は「家」といった回答が多い。
- 電子図書は、概ね年齢が上がるに連れて利用経験のある者の割合が増えている。特に、高校生のマンガの項目においては、85%以上が「よく読む」または「読んだことがある」と回答している。
- 1か月に1冊以上の本を読んだと回答した割合は、下表のとおりであり、東京都の平成31年度調査の結果を全年代で上回っている。

	小学2年生	小学5年生	中学2年生	高校2年生
江東区 (今回調査)	91.6%	82.1%	76.3%	43.5%
江東区 (H27調査)※	86.5%		63.0%	52.0%
東京都 (H31調査)	89.4%	79.7%	55.5%	41.3%

※H27調査は学年を限定せず、全学年を対象に実施

読まなかった理由は各年代で異なっており、小学2年生は「読みたいものがない」や「読むのが苦手」、小学5年生は「塾や習い事で忙しい」、中学2年生は「テレビやゲーム、スマートフォン、タブレットの方が好き」、高校2年生は「普段から読まない」といった項目が多く回答されていた。

- 学校の図書室・区立図書館の利用は、年齢が上がるにつれて少なくなっている。区立図書館においては、全年代において利用者が半数以下であった。
- 本を選ぶ際の参考として、小学2年生は「家族」、小学5年生と中学2年生は「友だち」、高校2年生は「TV・インターネット」という回答が多くあった。

- 平日の1日当たりの読書時間について、30分未満でも読書をしていると回答した割合は、小学2年生87.8%、小学5年生88.2%、中学2年生77.9%、高校2年生61.7%であった。

【参考】30分以上読書をしている児童生徒の割合

小学2年生…57.3%	小学5年生…60.5%
中学2年生…42.2%	高校2年生…40.6%

②子育て関連施設への調査

- 95%以上の施設が、図書室や図書コーナーといった本を読むためのスペースを設けている。そのうち、約30%の施設が、保護者向けの本等も提供している。
- 「絵本」や「事典・図鑑」を図書室や図書コーナーに置いている施設が多く、保護者向けの本を取り扱っている施設では「子育てに関するもの」を置いているといった回答が多くあった。
- 75%以上の施設が、図書室・図書コーナーについて、「利用が多い」または「どちらかといえば利用が多い」と回答している。
- 施設内での読書に関する活動として、75%以上の施設で「読み聞かせ」を実施しているほか、60%以上の施設で「本の修理」を実施している。
- 区立図書館の団体向けサービスについて、75%以上の施設が存在を認識している。最も活用されているサービスは「団体貸出」であった。
- 区立図書館に施設が望むこととして、「除籍資料の提供(リサイクル)」が最も多くあった。

8 集計結果の見方

- 回答結果の割合(%)は回答者数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。
- 複数回答(2つ以上の選択肢を選ぶことを可とする方式)の設問の場合、回答は選択肢ごとの回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「n」は、集計対象となった回答者数(回答者を限定する設問の場合は限定条件に該当する人)を表しています。
- 図表等にある前回調査とは、平成27年度に実施した調査です。
- 各質問で「本」と表しているものについては、教科書や参考書、マンガ、雑誌は含んでいません。

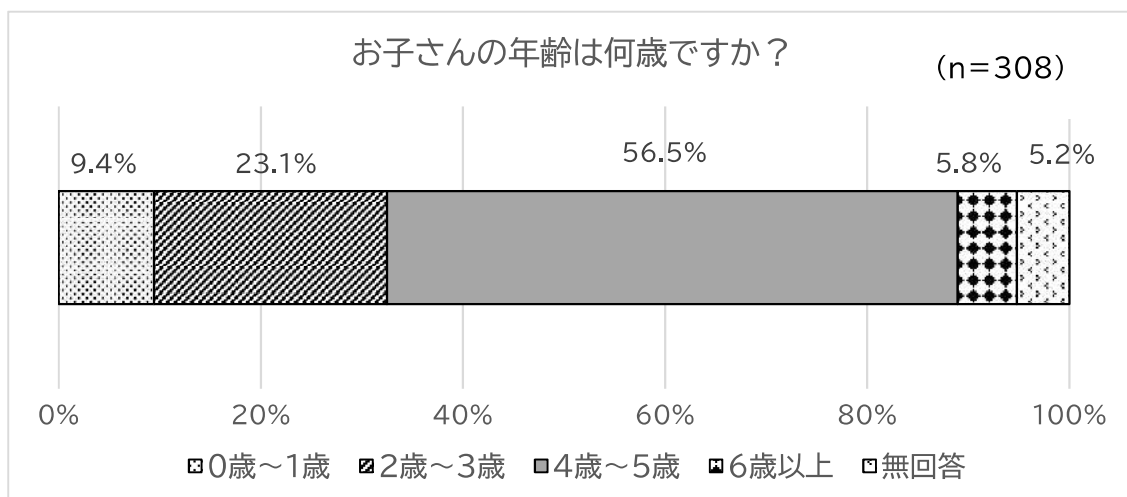
9 集計結果

①こども自身に関する調査

1 乳幼児とその保護者の読書状況

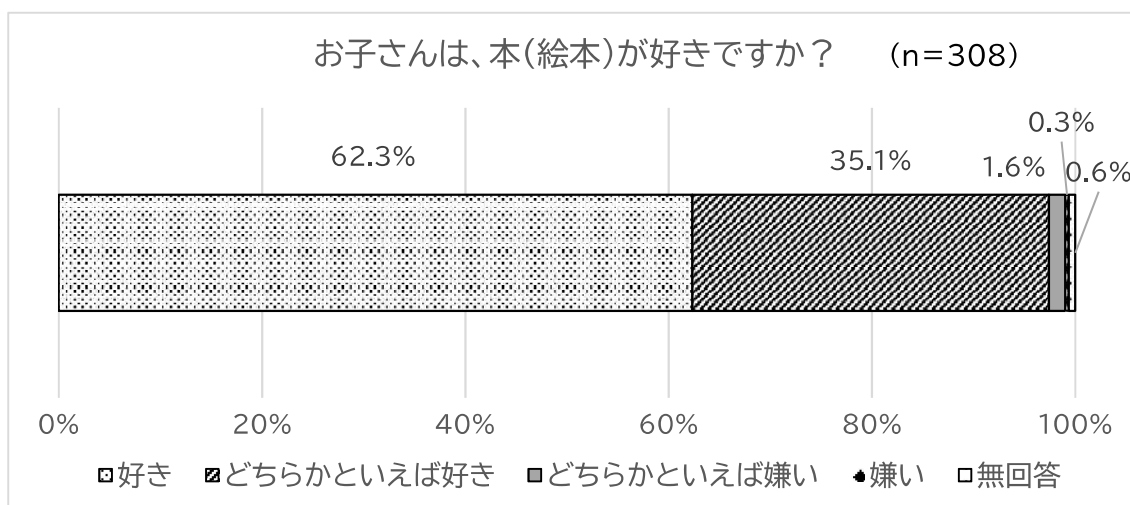
1-（1）回答者のこどもの年齢

「4歳～5歳」の子の保護者が半数以上であり、「2歳～3歳」の子の保護者が23.1%であった。「0歳～1歳」、「6歳以上」は10%未満であった。



1-（2）こどもの本(絵本)への興味

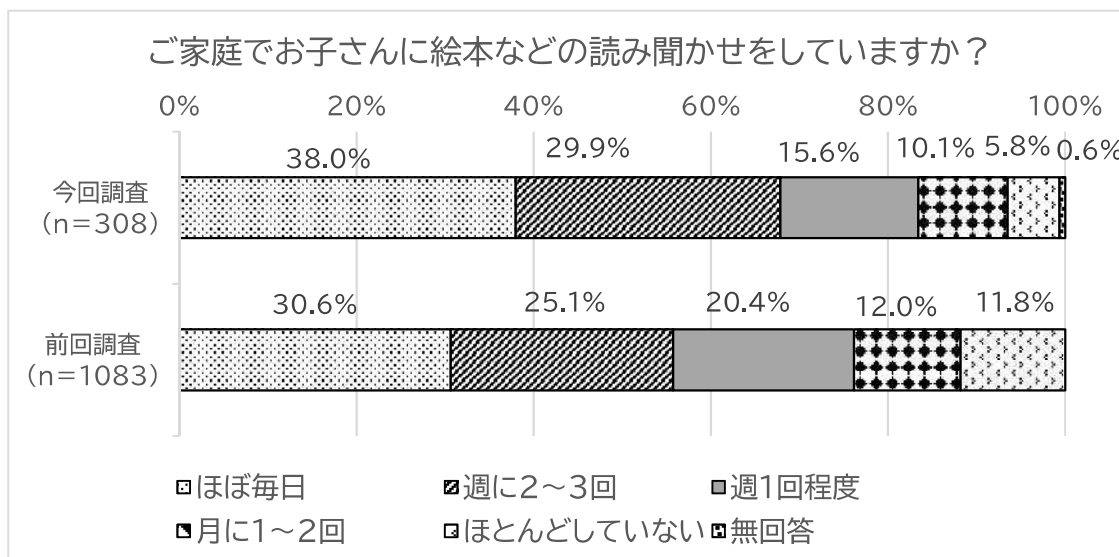
「好き」と回答したものが最も多く、「どちらかといえば好き」と合計すると、回答の95%以上を占めている。一方「嫌い」、「どちらかといえば嫌い」といった回答は、約2%であった。



1-(3) 家庭での読み聞かせの状況

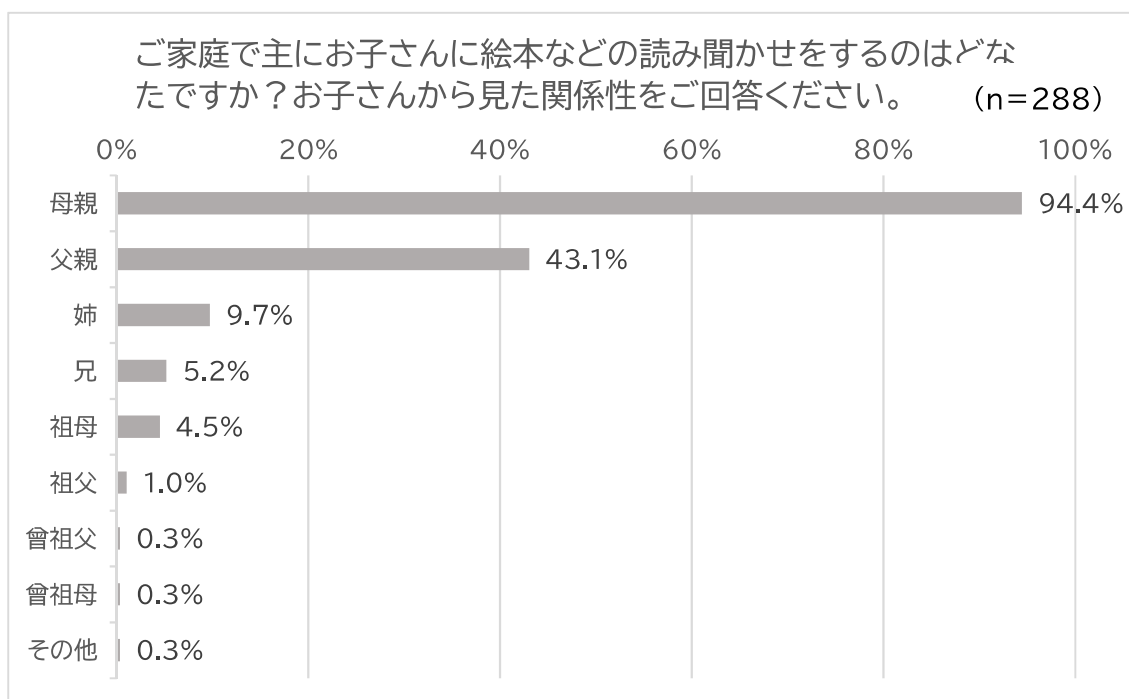
「ほぼ毎日」との回答が最多であり、「週に2~3回」、「週に1回程度」、「月に1~2回」がそれぞれ10%以上であった。

前回調査と比較すると、「ほぼ毎日」、「週に2~3回」の割合が増加しており、「ほとんどしていない」は半分以下になっている。



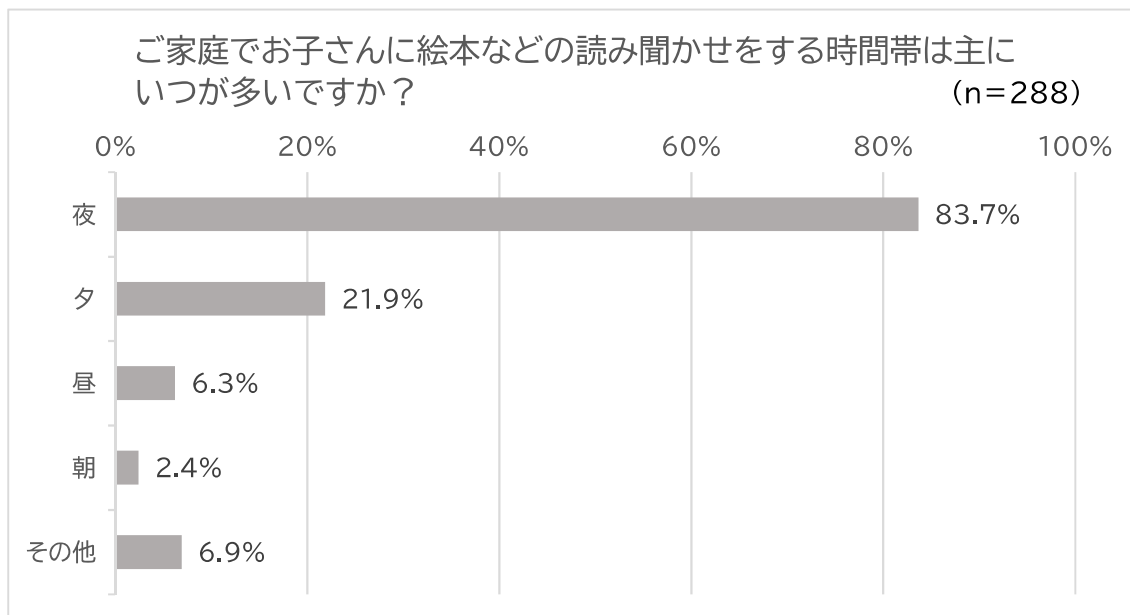
1-(4) 読み聞かせの実施者

「母親」との回答が90%以上であり、次いで「父親」と回答した割合が43.1%であった。



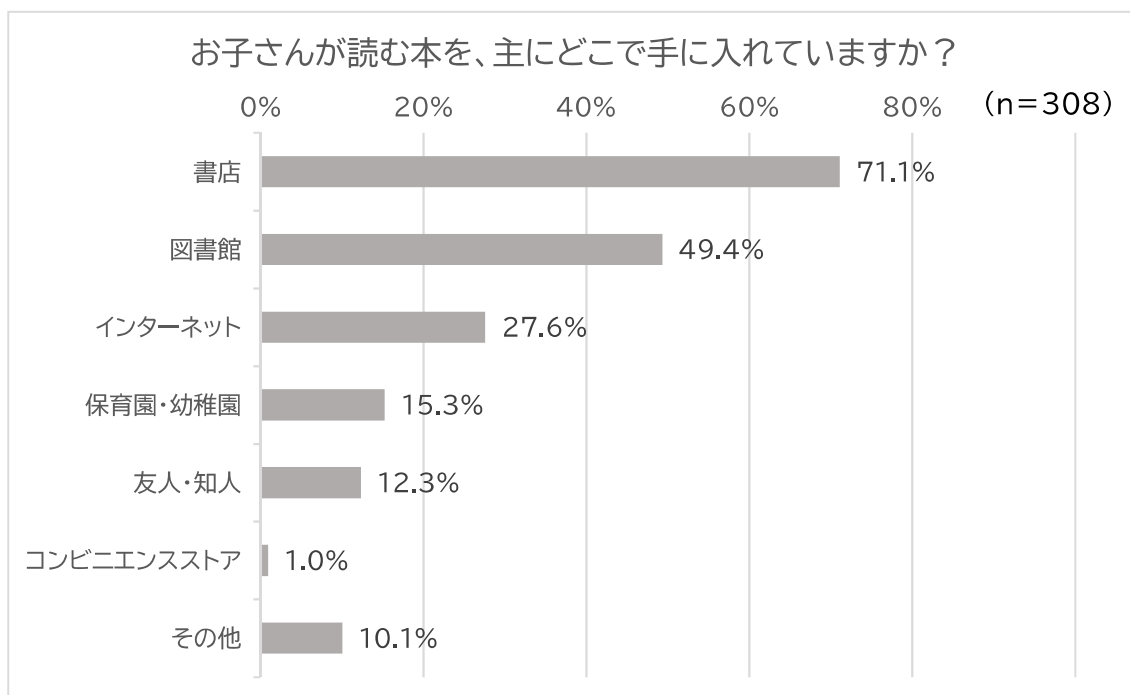
1-(5) 読み聞かせの時間帯

「夜」との回答が80%以上、「夕」との回答が20%以上であった。
一方、「朝」と回答した割合は約2%であった。



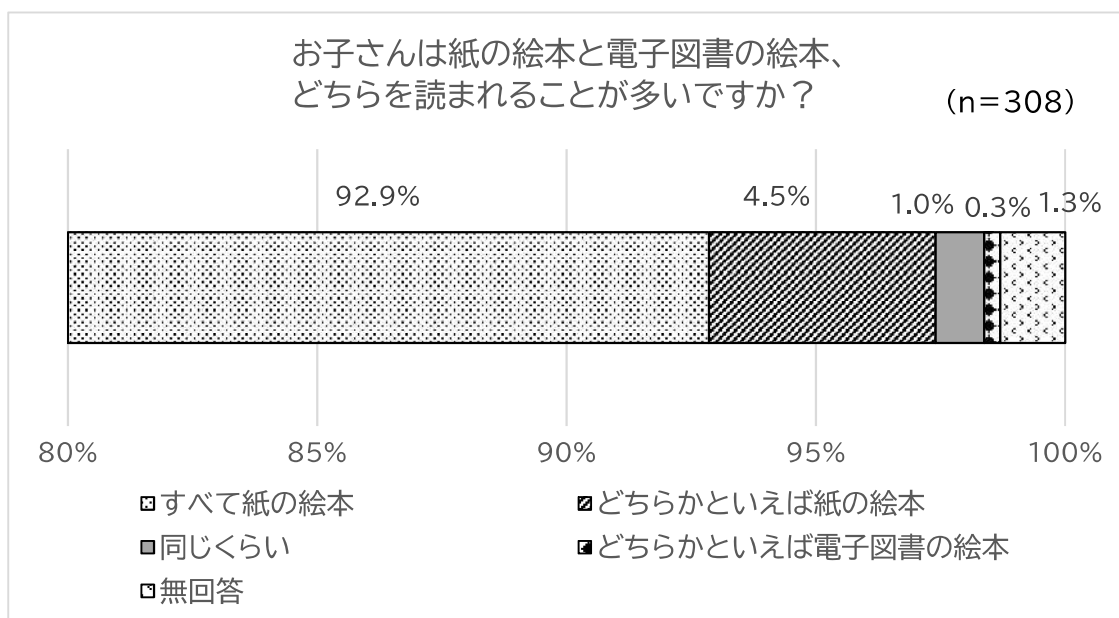
1-(6) こどもの本の入手先

「書店」が70%以上と最も多く、「図書館」が約半数であった。また、「インターネット」、「保育園・幼稚園」、「友人・知人」との回答も10%以上あった。



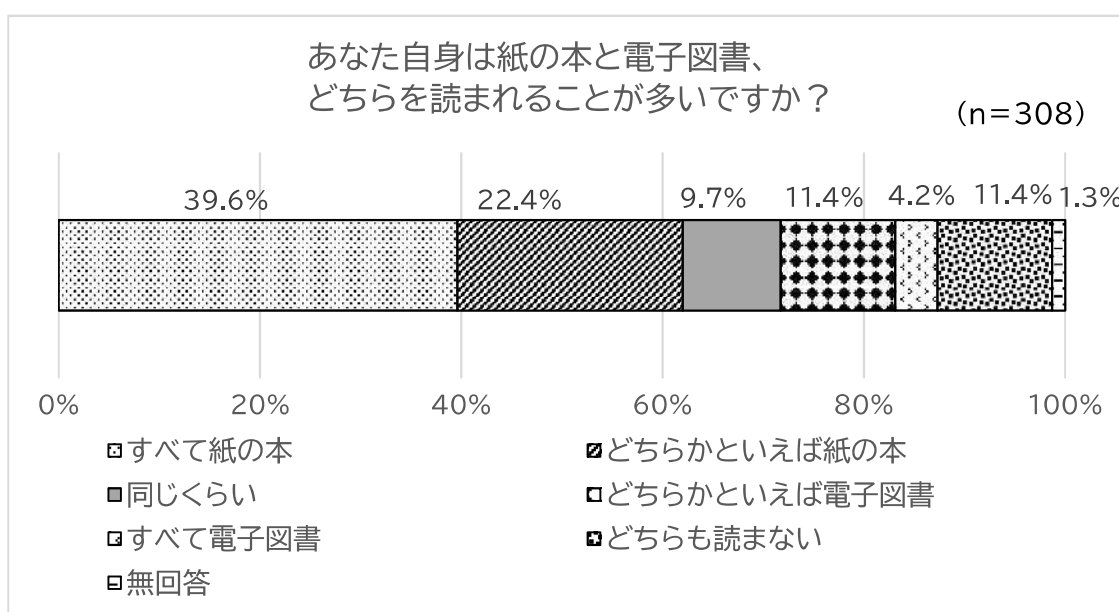
1-(7) 電子図書の利用状況(子ども)

「すべて紙の絵本」との回答が90%以上であった。電子図書については、「すべて電子図書の絵本」との回答は無く、「どちらかといえば電子図書」と回答したものは0.3%であった。



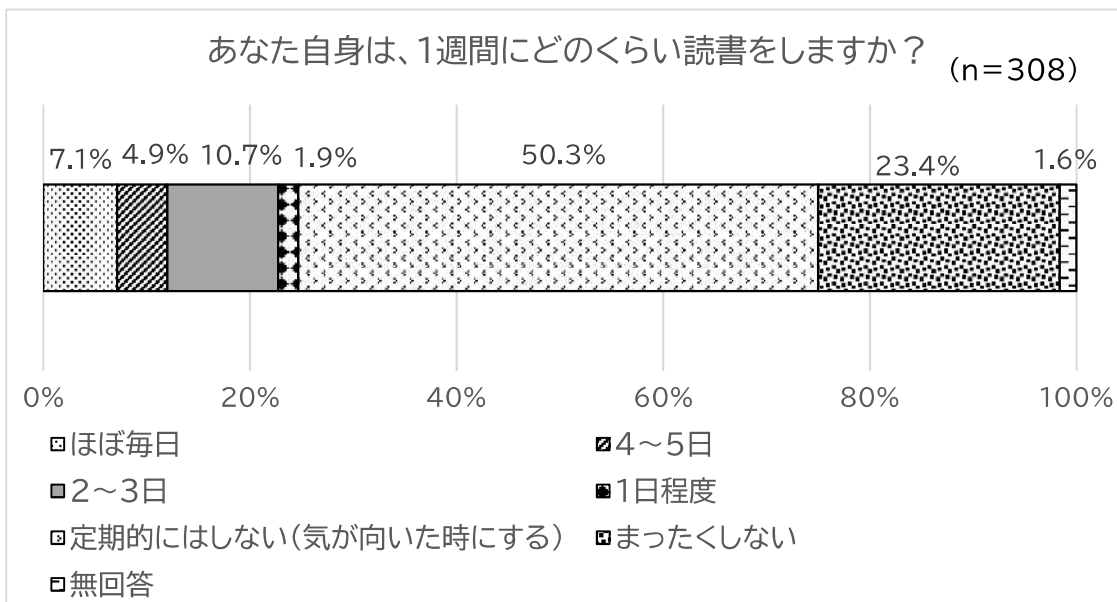
1-(8) 電子図書の利用状況(保護者)

「すべて紙の本」との回答が最も多く、「どちらかといえば紙の本」の回答と合計すると半数以上である。電子図書については、「すべて電子図書」が約4%、「どちらかといえば電子図書」の回答と合計すると約15%であった。



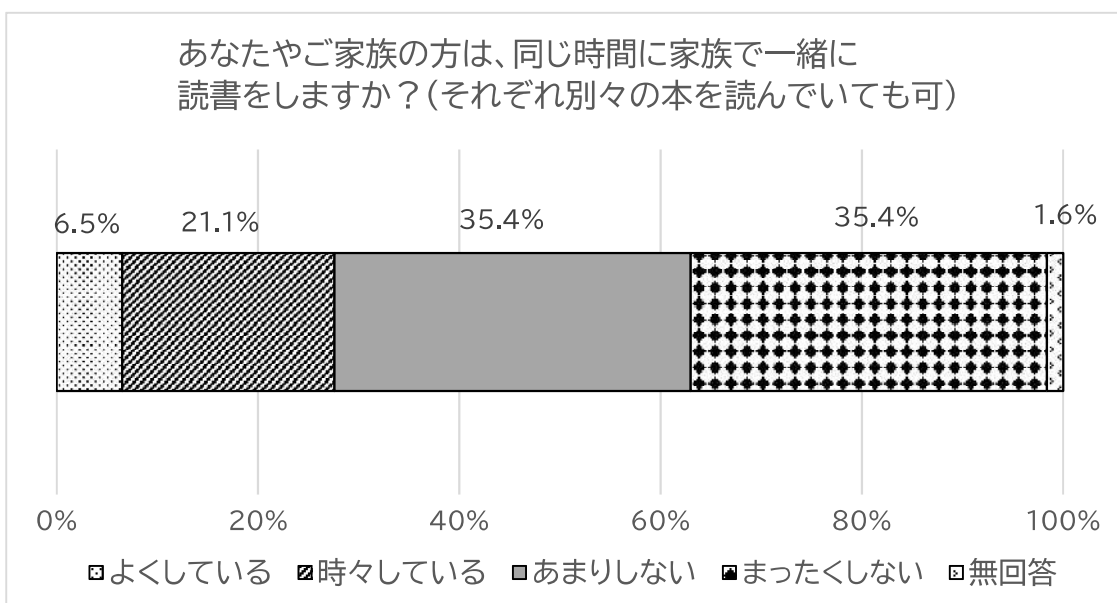
1-(9) 保護者の読書状況

「定期的にはしない(気が向いた時にする)」との回答が半数以上を占めた。2番目に多い回答は「まったくしない」であった。「1日程度」以上の頻度と回答したものの合計の割合は24.6%であった。



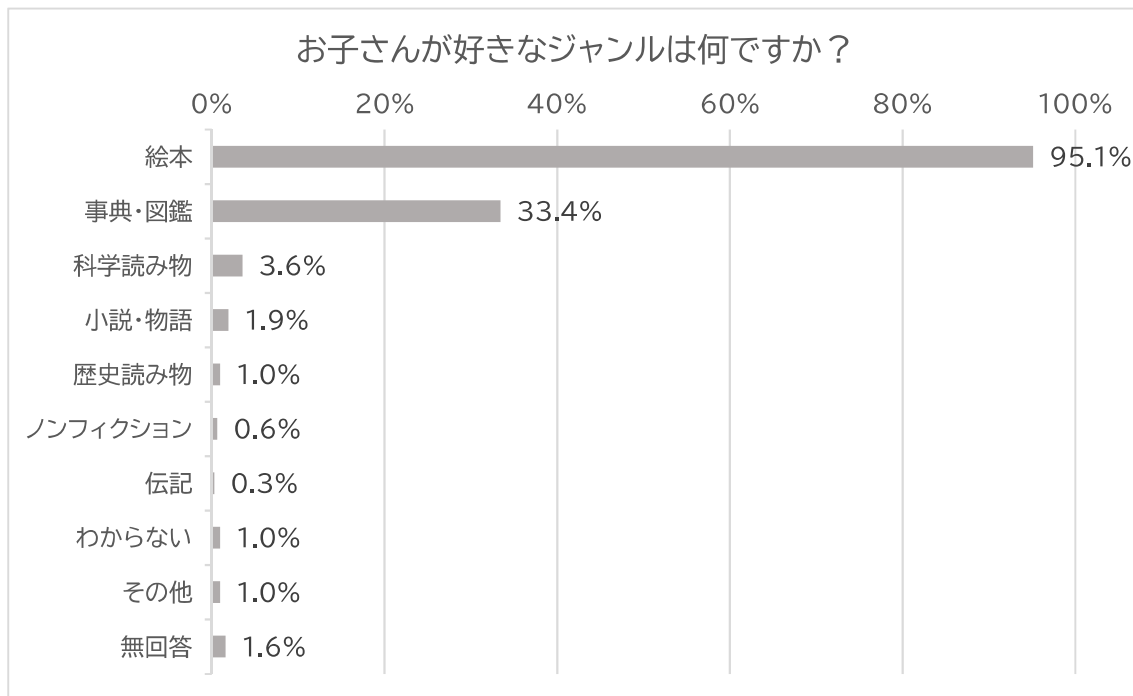
1-(10) 家族一緒に行う読書の状況

「あまりしない」、「まったくしない」がそれぞれ35.4%と最も高い割合であった。一方、「よくしている」と回答したものは6.5%であった。



1-(11) こどもが好きな本のジャンル

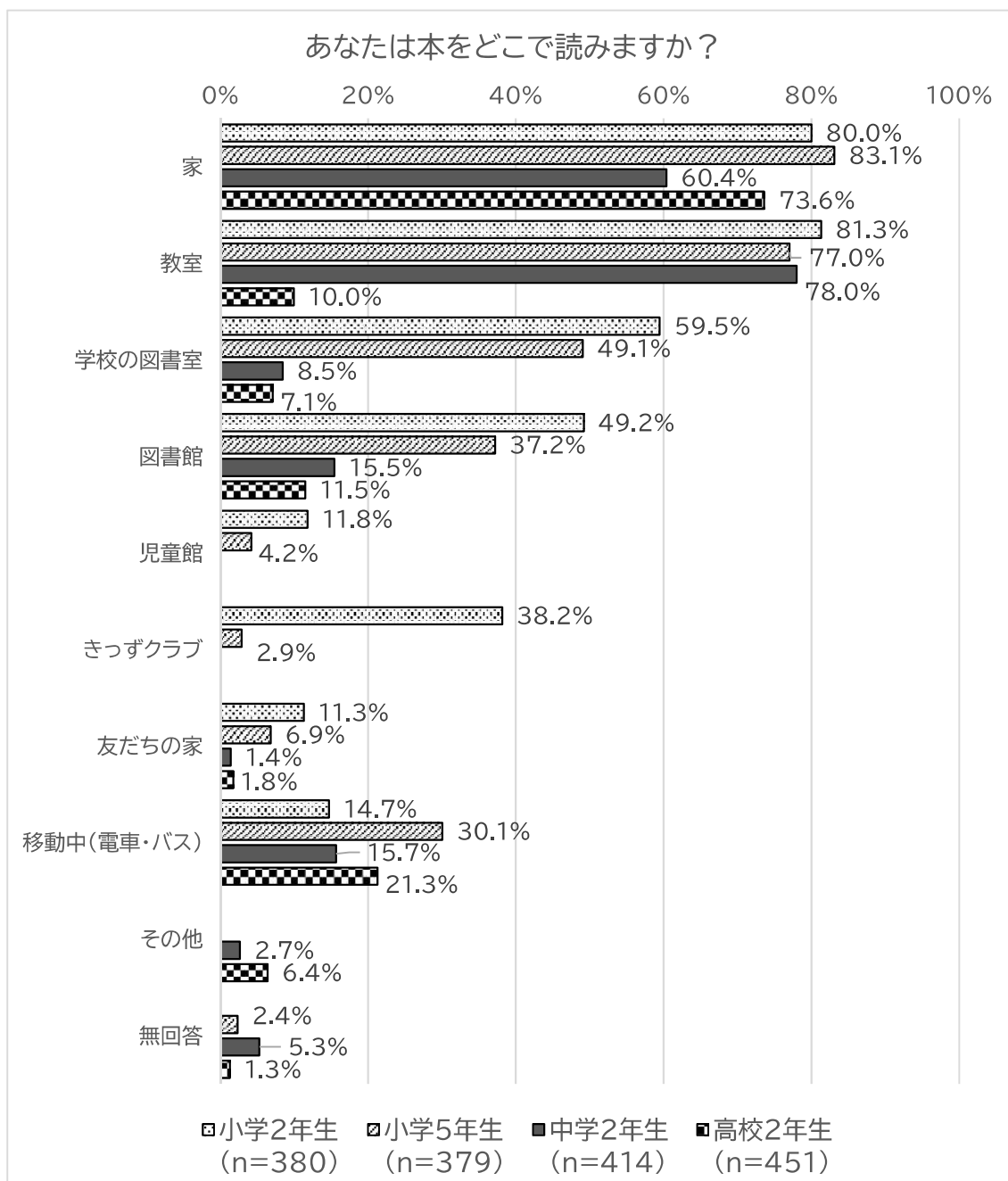
「絵本」が約95%と最も多い回答であった。その他に10%以上の回答割合であったものは「事典・図鑑」の選択肢で、約30%であった。



2 児童生徒の読書状況

2-1) 本を読む場所

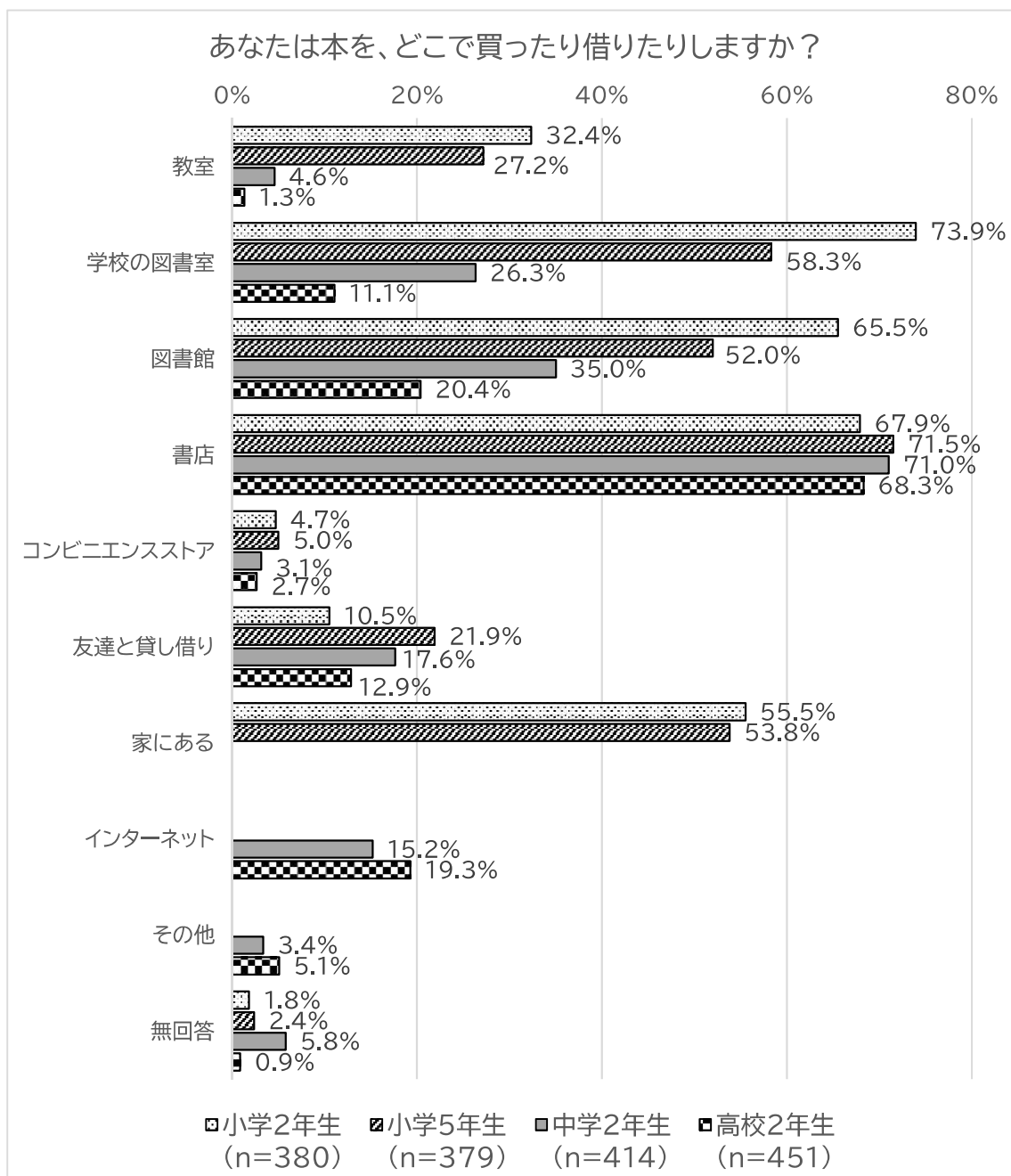
小学2年生と中学2年生は「教室」、小学5年生と高校2年生は「家」が最多回答であった。また、小学2年生は「学校の図書室」、「図書館」、「きっずクラブ」、小学5年生は「学校の図書室」、「図書館」、「移動中(電車・バス)」の項目で30%以上の数値を示している。



※中学2年生、高校2年生は「児童館」、「きっずクラブ」の選択肢を設けていない。

2-(2) 本を入手する場所

小学2年生は「学校の図書室」との回答が最多であり、小学5年生、中学2年生、高校2年生は「書店」との回答が最多であった。「書店」については、全世代で60%以上という結果になった。また、小学2年生、小学5年生は「学校の図書室」、「図書館」、「家にある」といった項目で50%以上の回答結果となった。

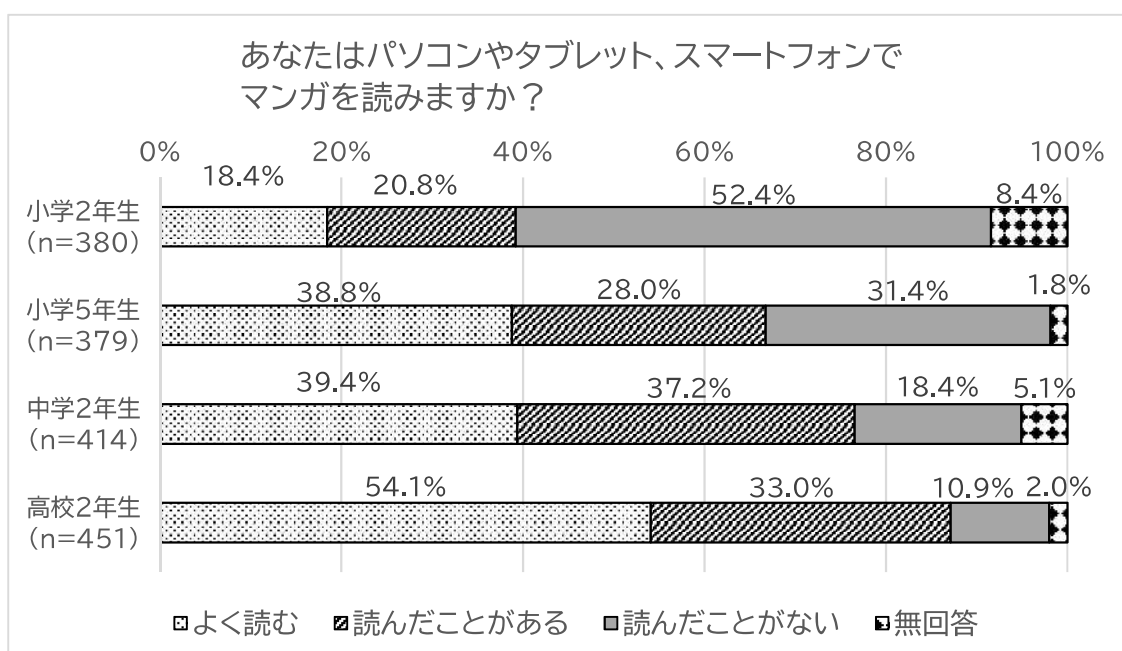
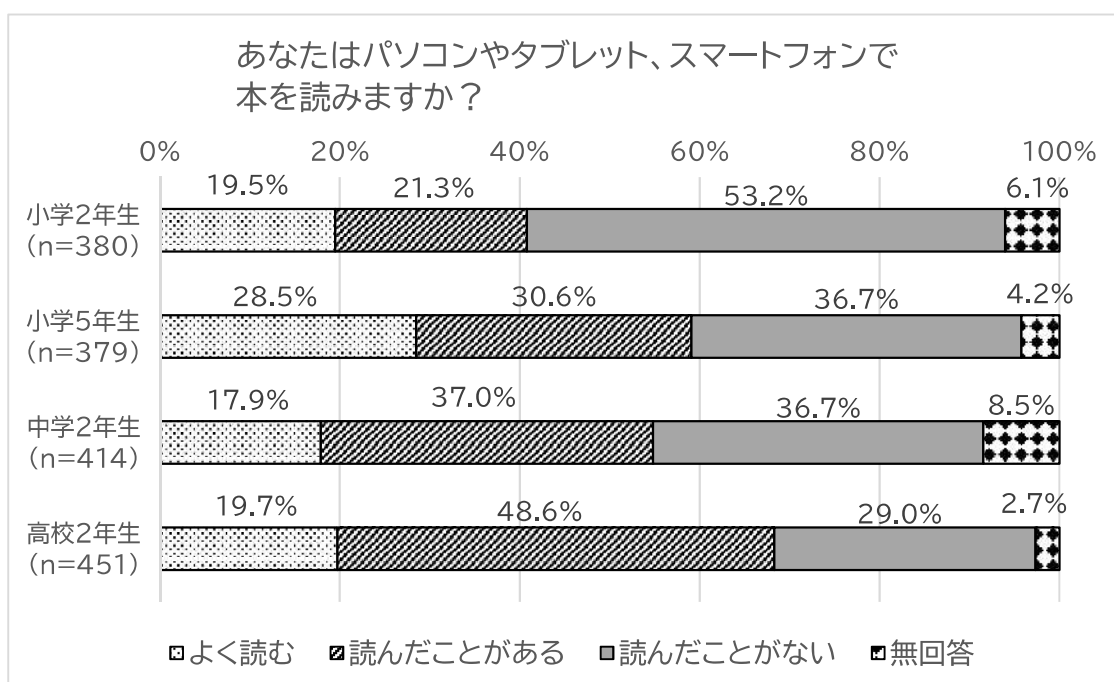


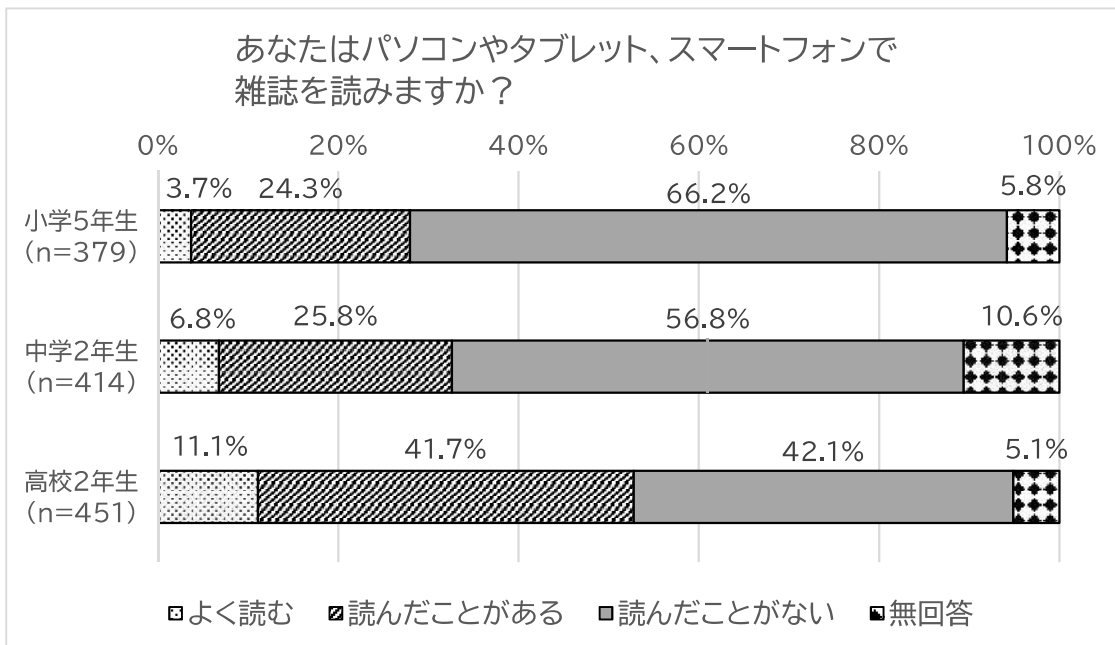
※小学2年生、小学5年生は「インターネット」「その他」、中学2年生、高校2年生は「家にある」の選択肢を設けていない。

2-(3) 電子書籍の利用状況【雑誌は小学5年生～高校2年生対象】

本及びマンガについては、小学5年生、中学2年生、高校2年生の半数以上が「よく読む」、「読んだことがある」と回答している。

雑誌については、高校2年生のみ半数以上が「よく読む」、「読んだことがある」と回答している。

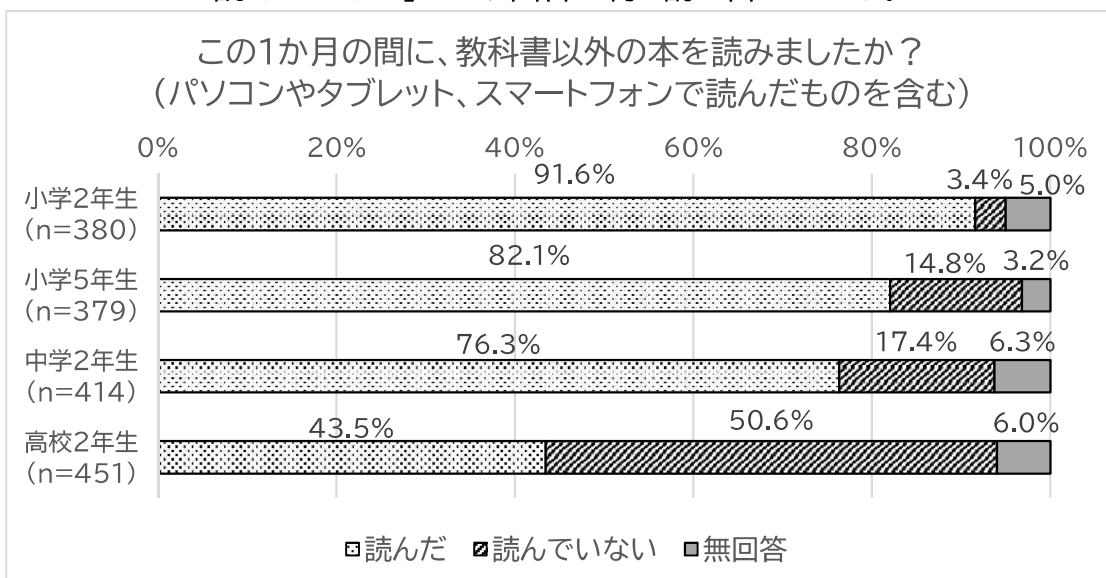




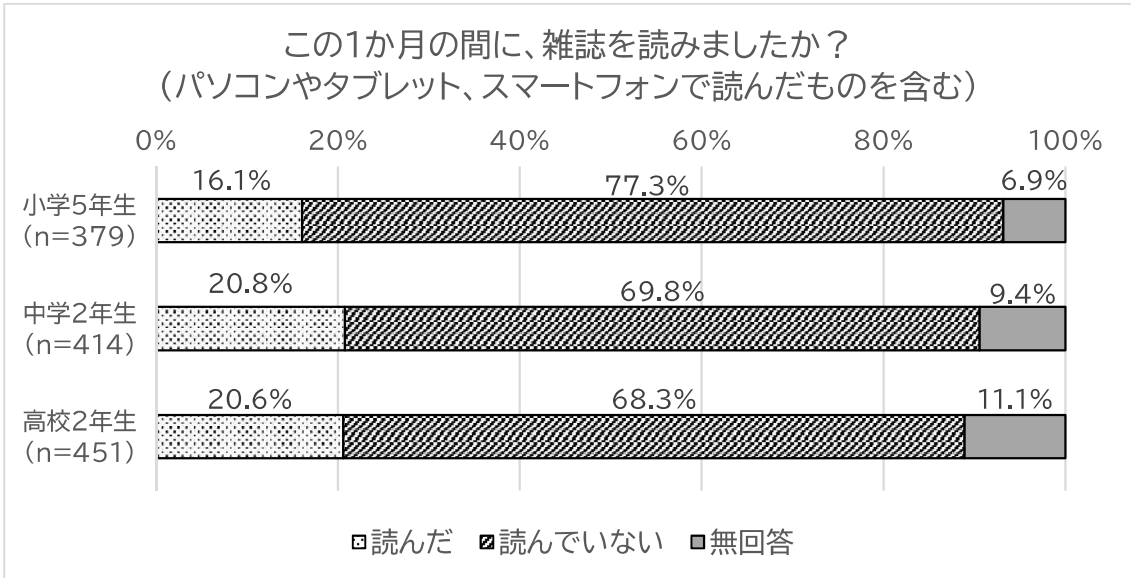
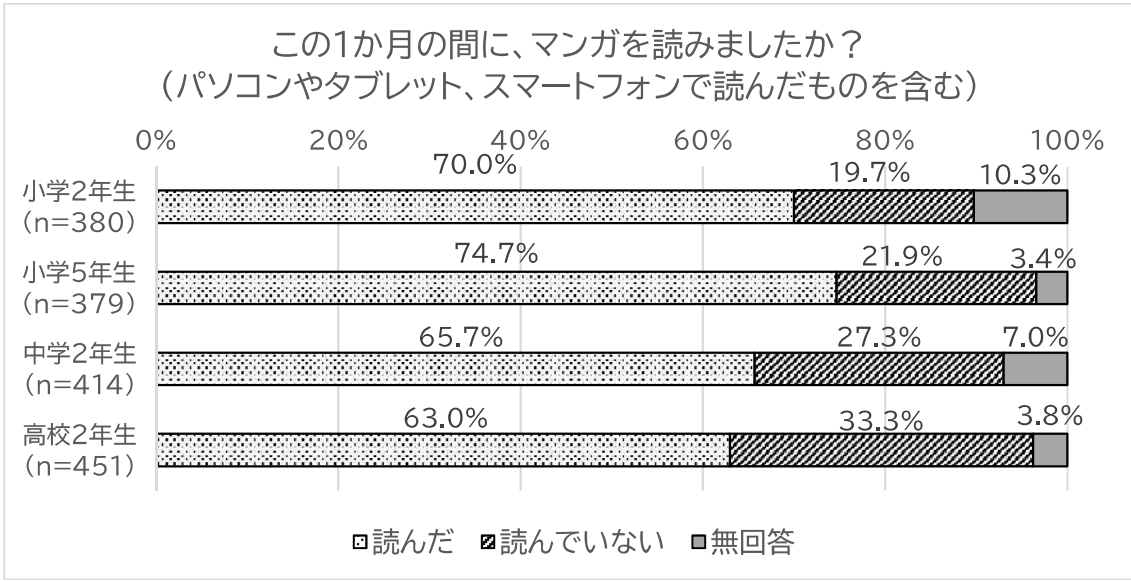
2-(4) 1か月間の読書状況【雑誌は小学5年生～高校2年生対象】

本については、「読んだ」と回答した割合は、小学2年生が最も高く、年齢が上がるにつれて割合が低くなっている。また、高校2年生は、「読んでいない」が「読んだ」を上回っている。

マンガについては、全年代で6割以上が「読んだ」と回答している。一方、雑誌に関しては、調査未実施の小学2年生を除くすべての年代において「読んでいない」という回答が約7割を占めている。

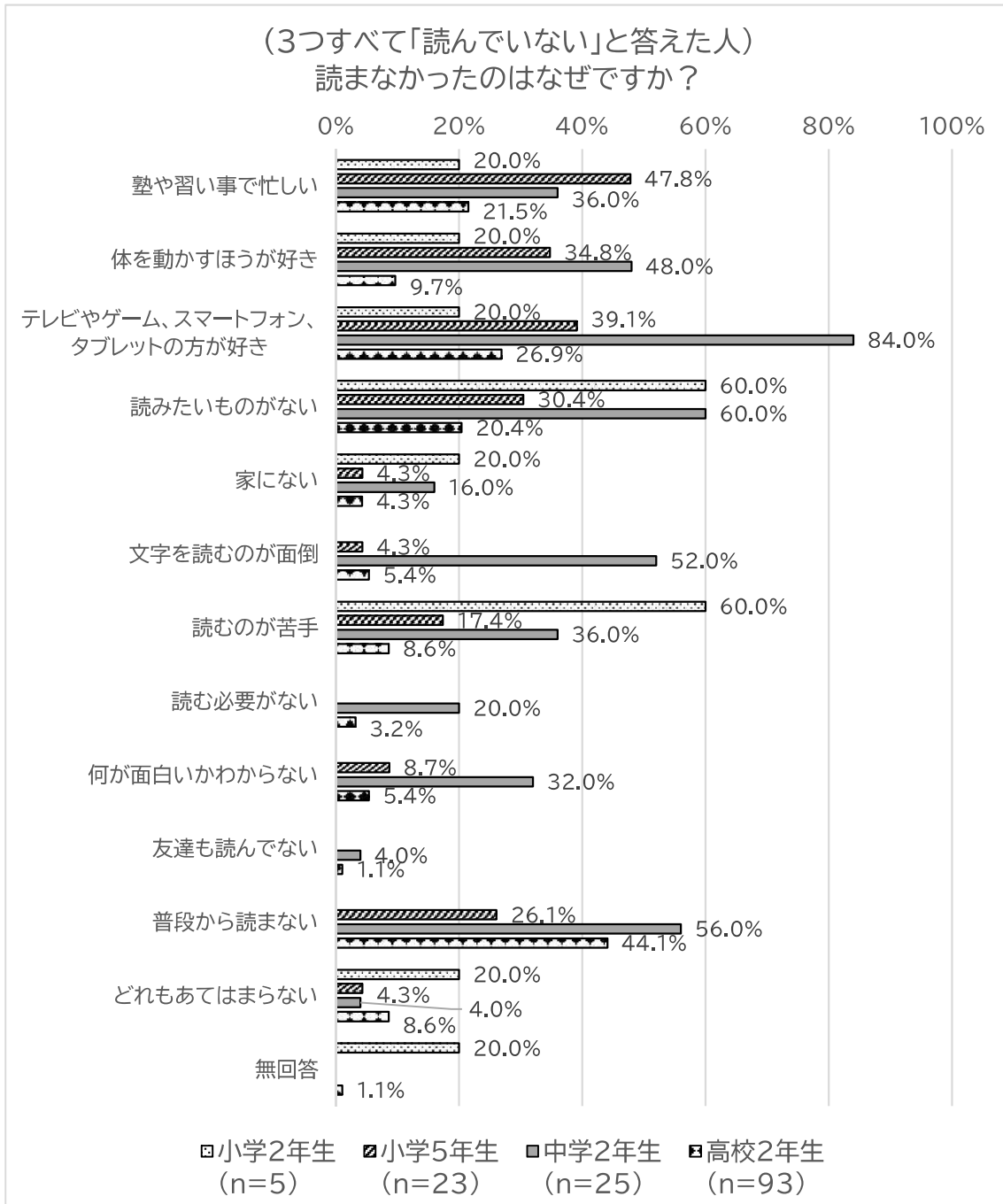


※「読んだ」の選択肢は、1冊以上読み終わっていることを条件としている。
(マンガ、雑誌についても同様)



2-(5) 本・マンガ・雑誌のいずれも読まなかった理由

それぞれの年代で最も多い回答は、小学2年生では「読みたいものがない」、「読むのが苦手」、小学5年生は「塾や習い事で忙しい」、中学2年生は「テレビやゲーム、スマートフォン、タブレットの方が好き」、高校2年生は「普段から読まない」であった。

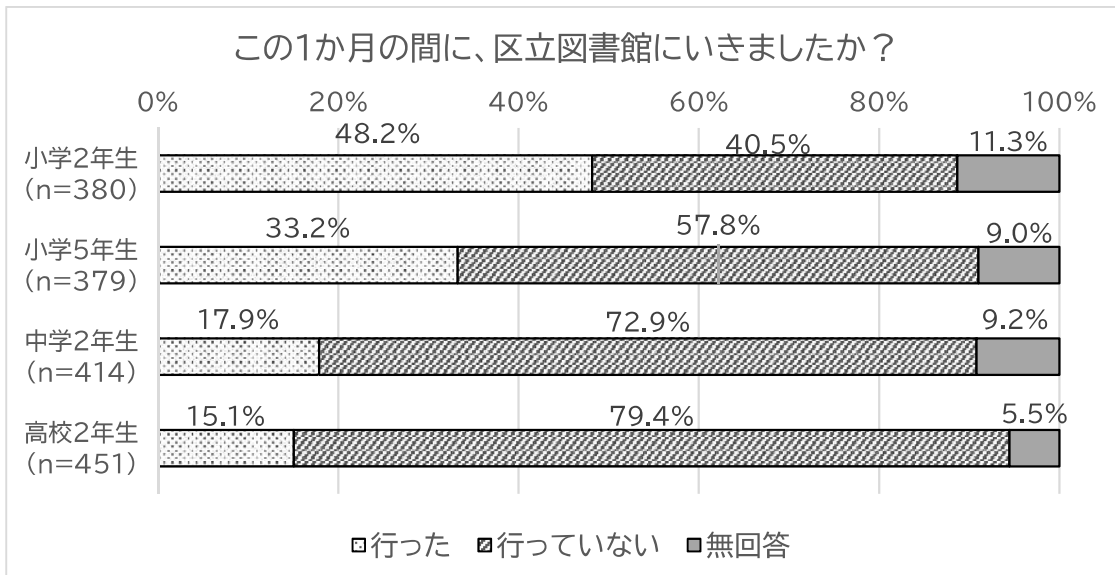
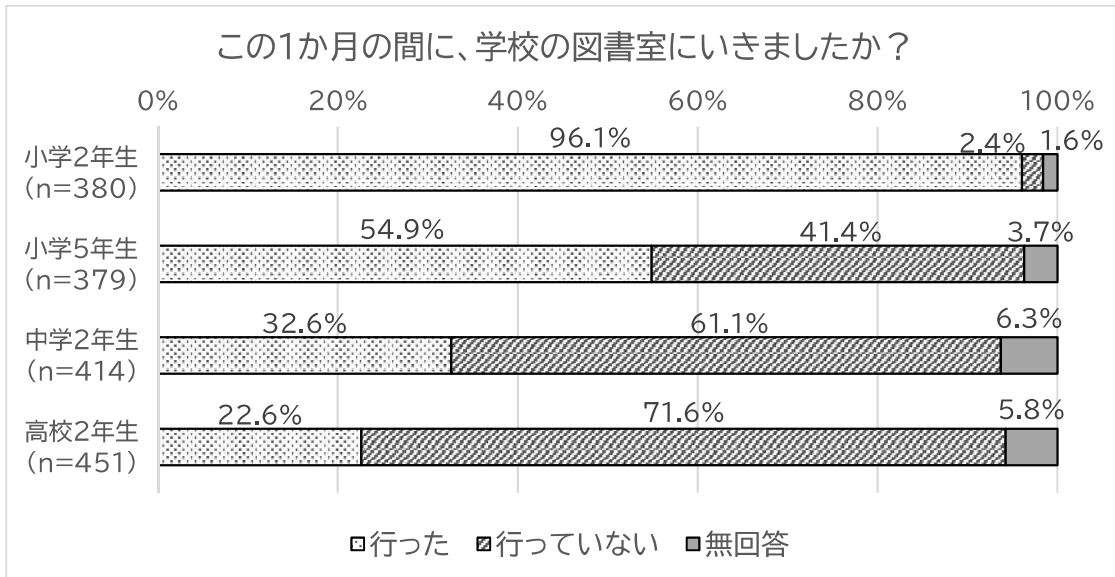


※小学2年生は「文字を読むのが面倒」、「読む必要がない」、「何が面白いかわからない」、「友達も読んでない」、「普段から読まない」の選択肢を設けていない。

2-(6) 図書室・図書館の利用状況

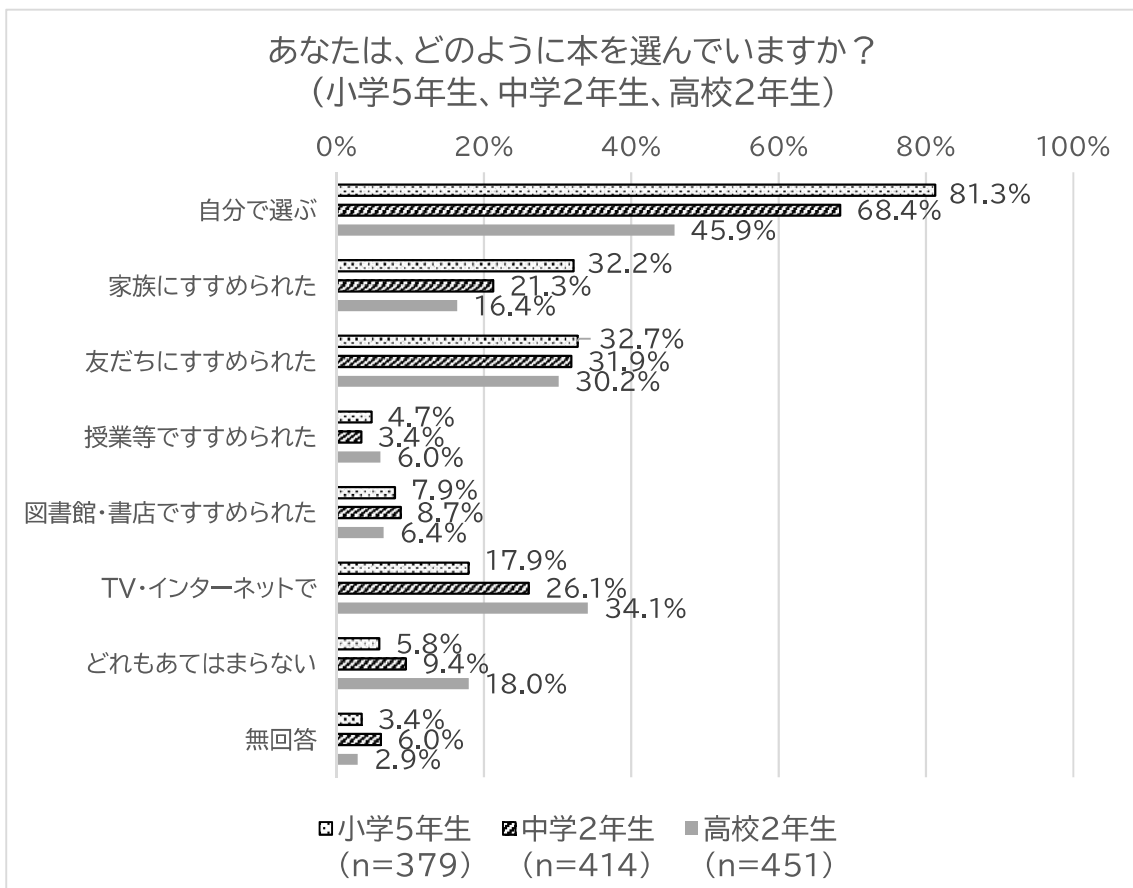
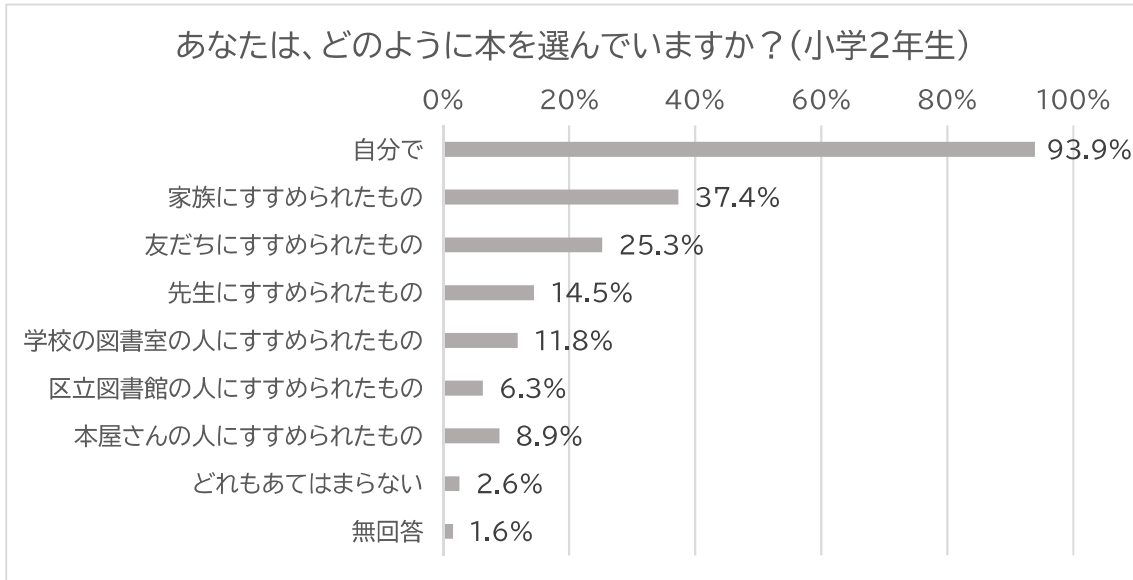
学校の図書室、区立図書館のいずれについても、「行った」と回答した割合が最も高いのは、小学2年生であった。年齢が上がるにつれて「行った」と回答した割合は低くなっている。

また、区立図書館については、全年代において、「行った」と回答した割合が半数以下であった。



2-(7) 本を選ぶ際の基準

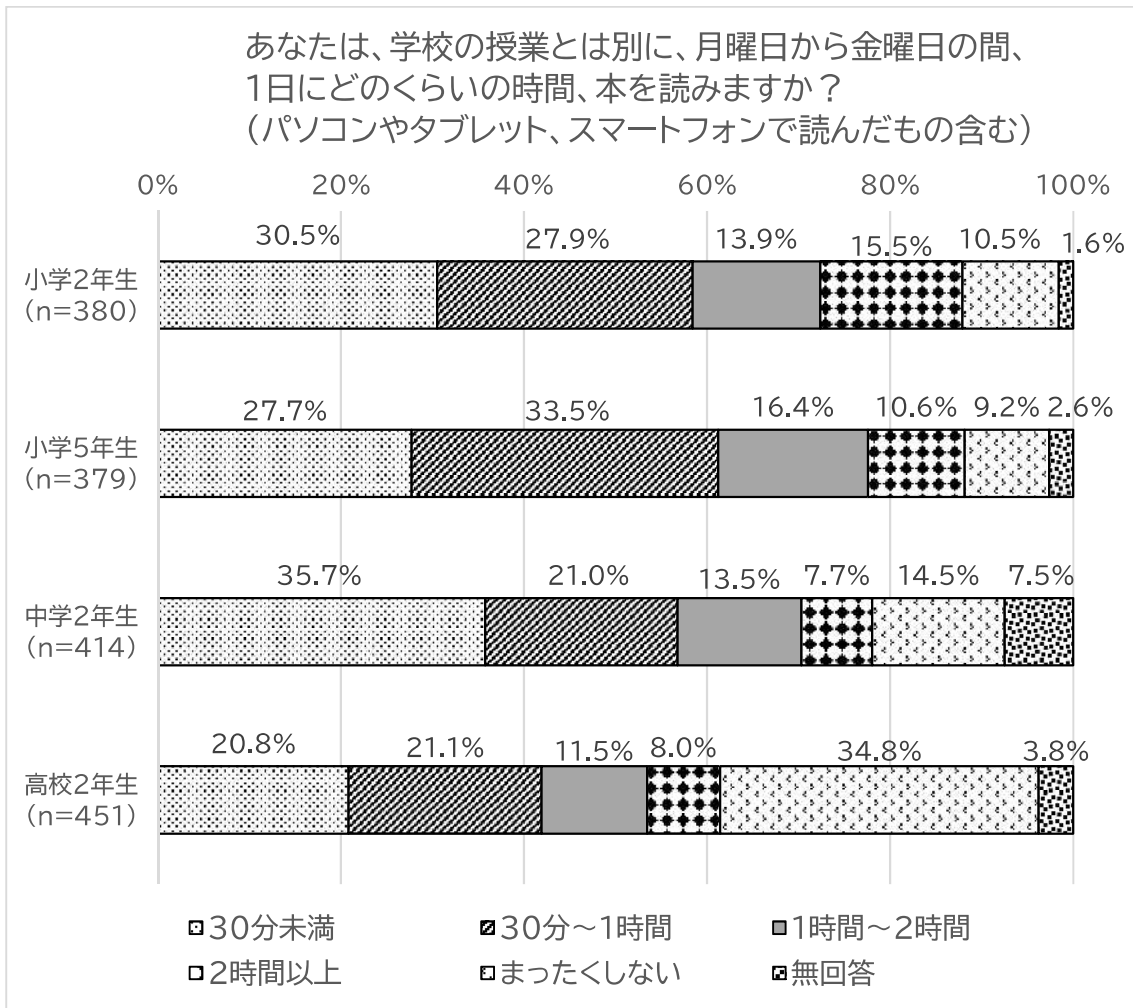
いずれの年代も「自分で選ぶ」が最も多い回答であった。2番目に多い回答は、小学2年生は「家族にすすめられたもの」、小学5年生と中学2年生は「友だちにすすめられた」、高校2年生は「TV・インターネット」であった。



2-(8) 平日の読書時間

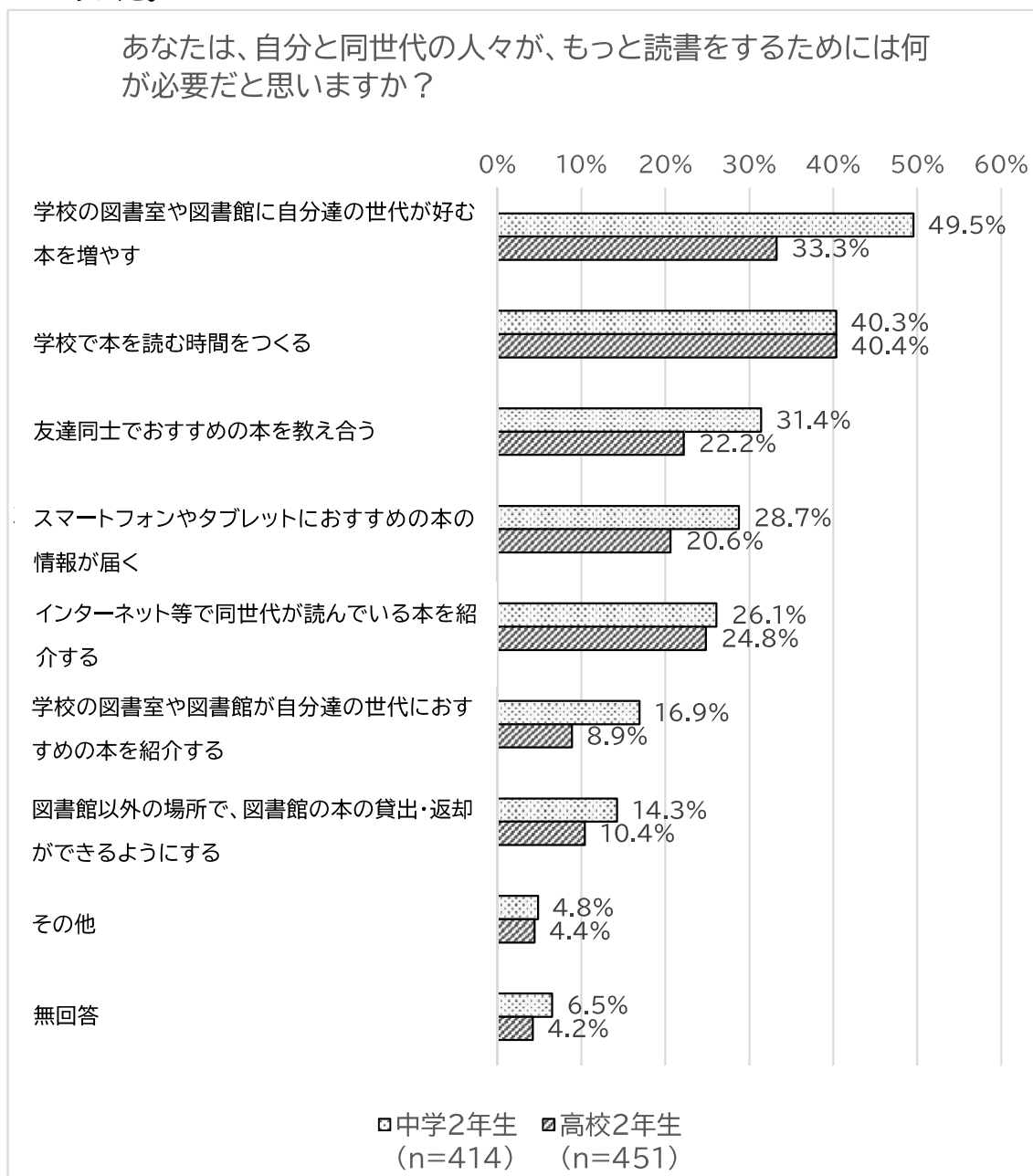
最も多い回答は、小学2年生と中学2年生は「30分未満」、小学5年生は「30分～1時間」、高校2年生は「まったくしない」であった。

「まったくしない」、「無回答」を除いた、本を読んでいると回答した割合は、小学2年生87.8%、小学5年生88.2%、中学2年生77.9%、高校2年生61.4%であった。



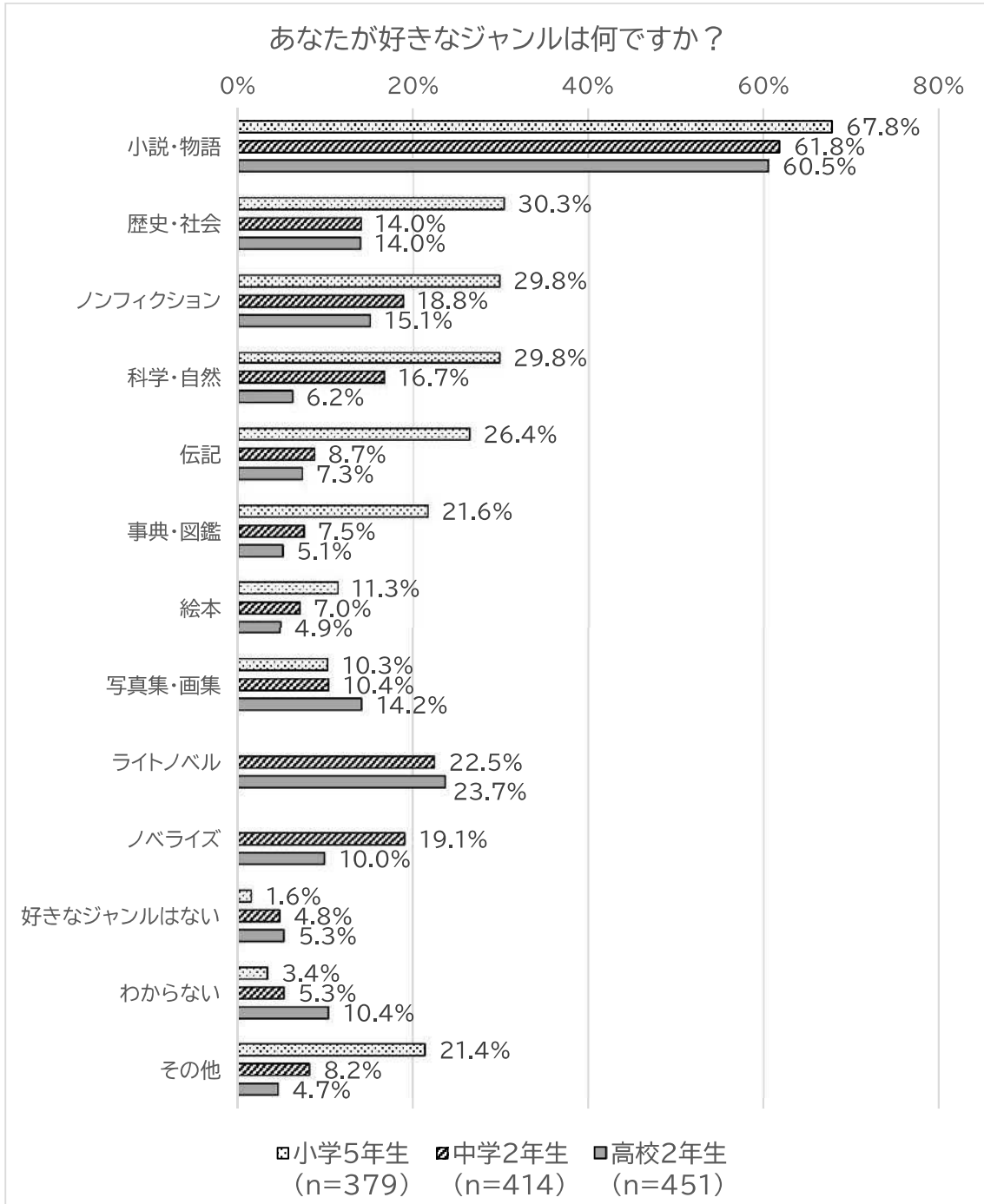
2-(9) 同世代が読書に取り組むための方策【中学2年生、高校2年生対象】

最も多い回答は、中学2年生は「学校の図書室や図書館に自分達の世代が好む本を増やす」、高校2年生は「学校で本を読む時間を増やす」であった。上記回答に加え、「友達同士でおすすめの本を教え合う」、「スマートフォンやタブレットにおすすめの本の情報が届く」、「インターネット等で同世代が読んでいる本を紹介する」の項目が、どちらの世代でも20%以上の回答であった。



2-(10) 好きな本のジャンル【小学5年生～高校2年生対象】

すべての年代で「小説・物語」が最も多く回答されている。2番目に多い回答は、小学5年生は「歴史・社会」、中学2年生と高校2年生は「ライトノベル」であった。また、小学5年生は、「ノンフィクション」、「科学・自然」、「伝記」、「事典・図鑑」で20%以上の回答があった。

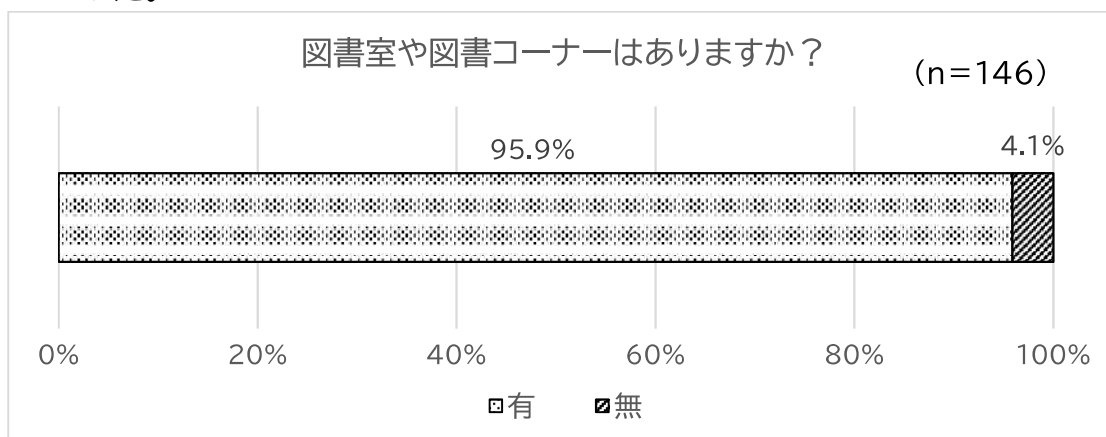


※小学5年生は「ライトノベル」、「ノベライズ」の選択肢を設けていない。

②子育て関連施設への調査

(1) 図書室、図書コーナーの有無

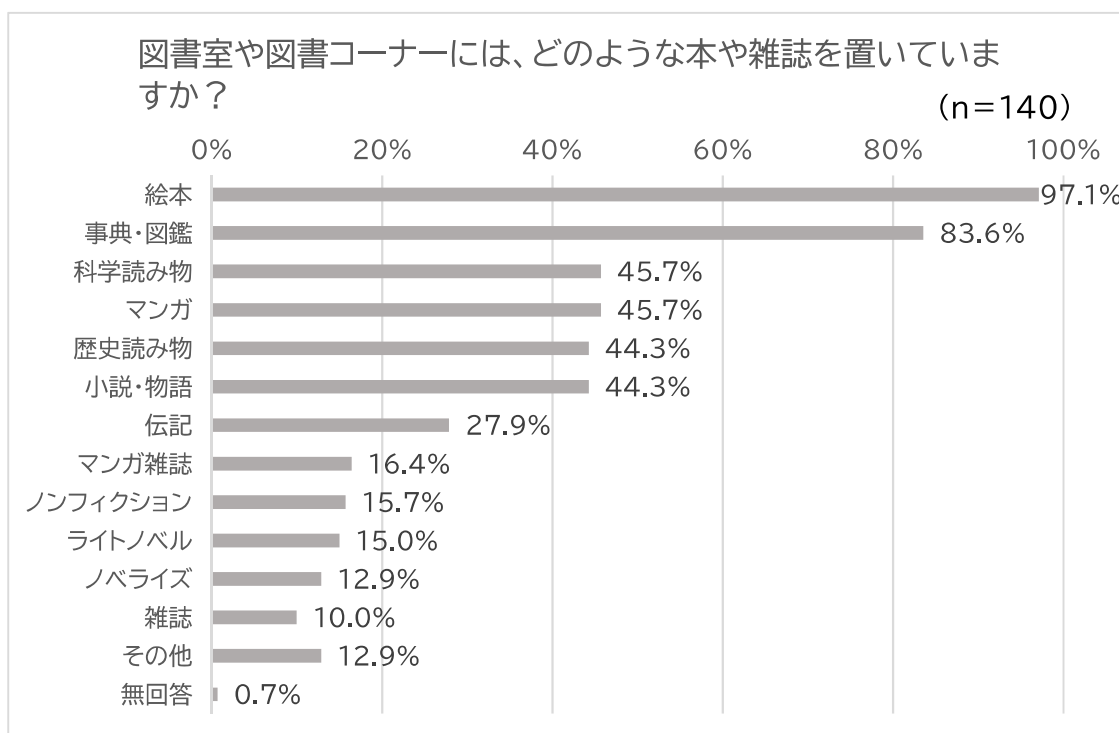
95%以上の施設が、図書室や図書コーナーを設置しているとの回答であった。



※図書コーナー:施設が所有する本(冊数は無関係)を利用者が自由に手に取り、読むことができるスペース

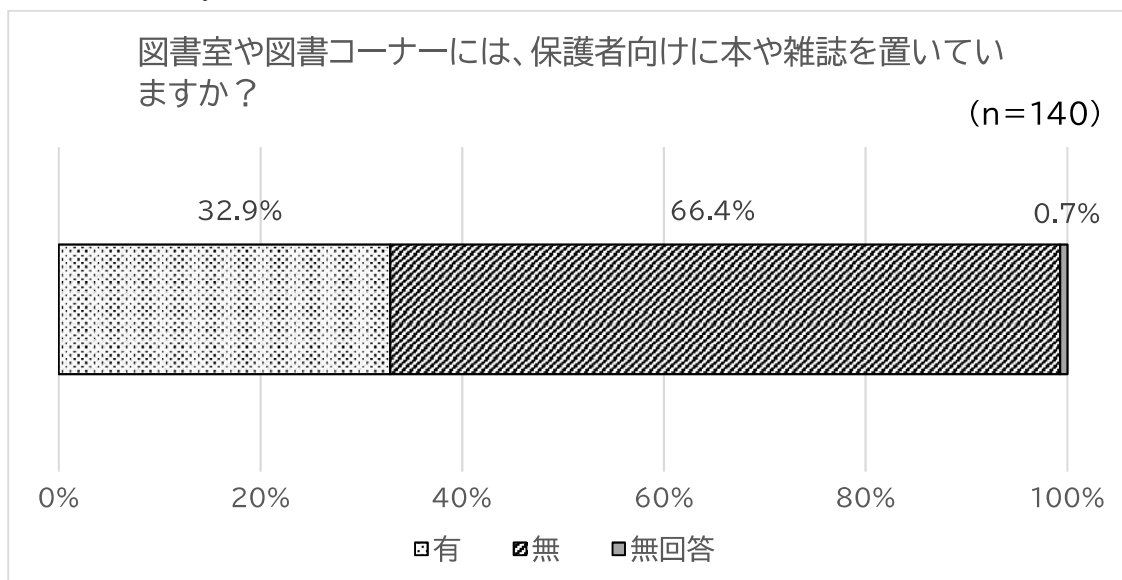
(2)提供しているこども向けの本のジャンル

最も多い回答は「絵本」の97.1%であった。また、「事典・図鑑」が80%以上の施設が置いていると回答した。



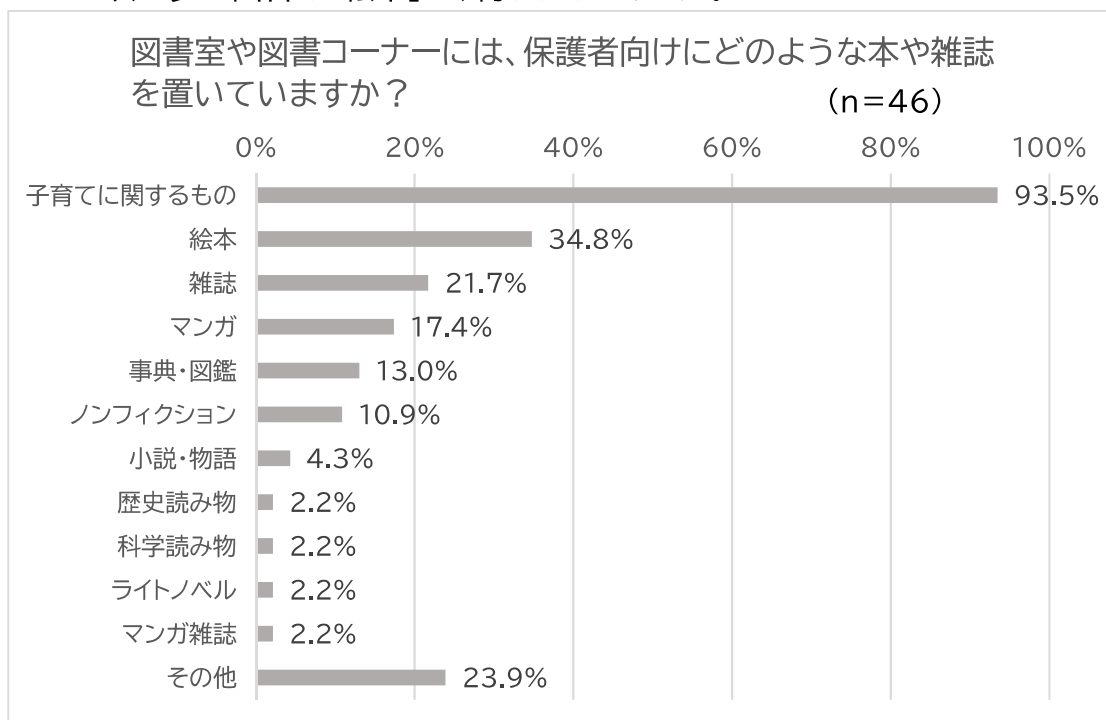
(3) 保護者向けの本の設置状況

約30%の施設が、保護者向けの本や雑誌も図書室、図書コーナーに置いている。



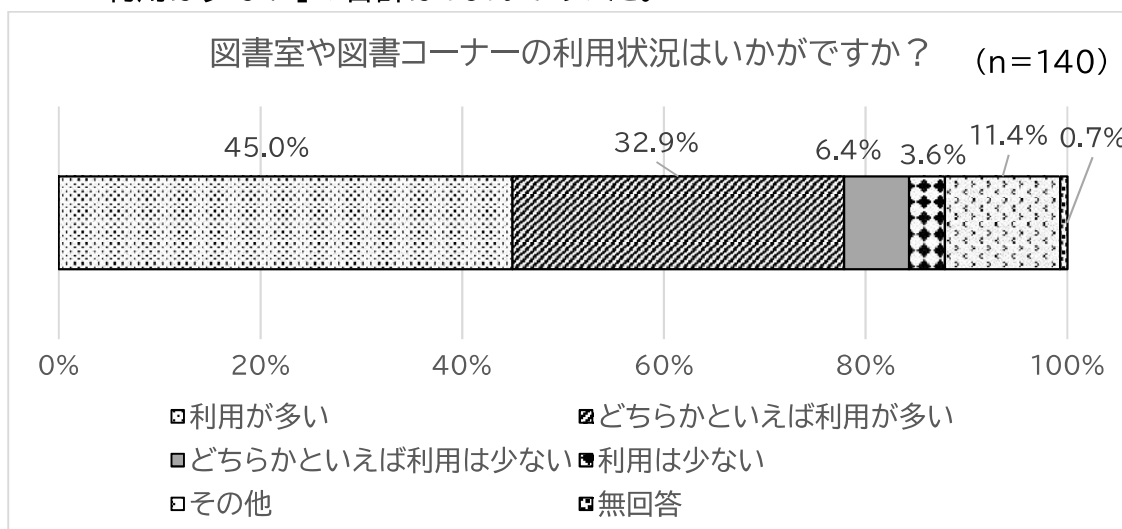
(4) 提供している保護者向けの本のジャンル

「子育てに関するもの」と回答した施設が最も多く、90%以上であった。次に多い回答は「絵本」で、約35%であった。



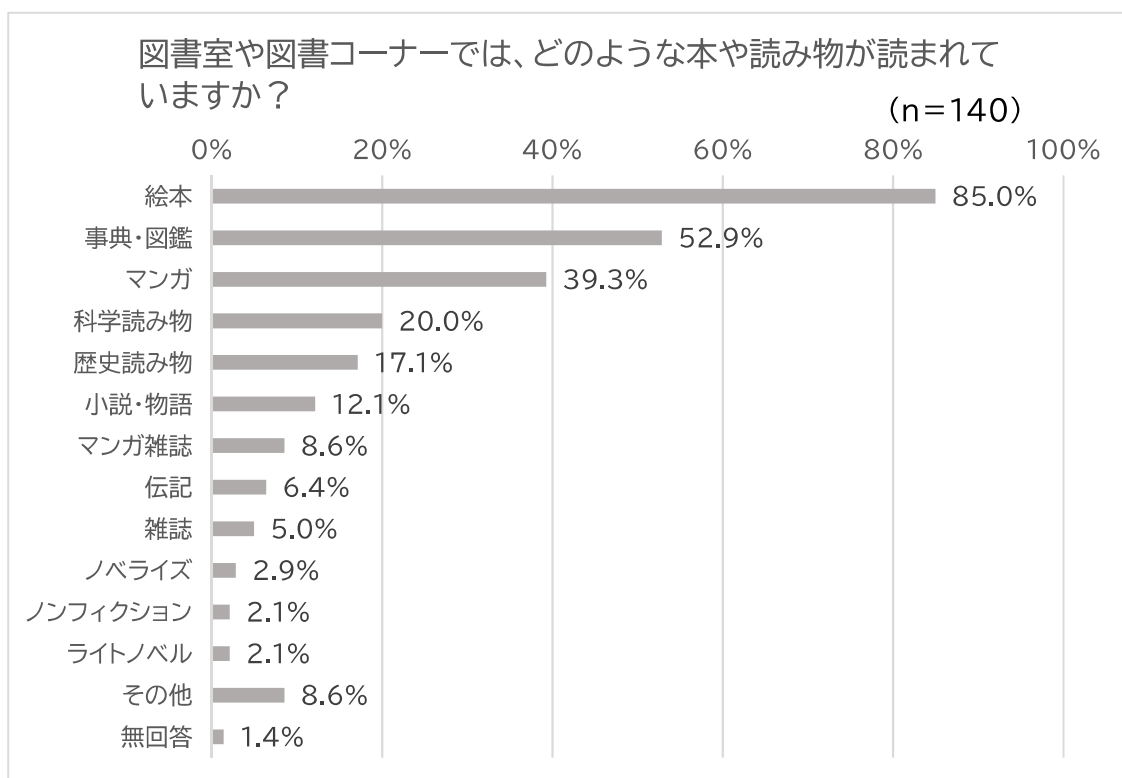
(5) 図書室・図書コーナーの利用状況

「利用が多い」との回答が最も多く、「どちらかといえば利用が多い」と合計すると75%以上を占めている。一方、「利用が少ない」、「どちらかといえば利用は少ない」の合計は10%であった。



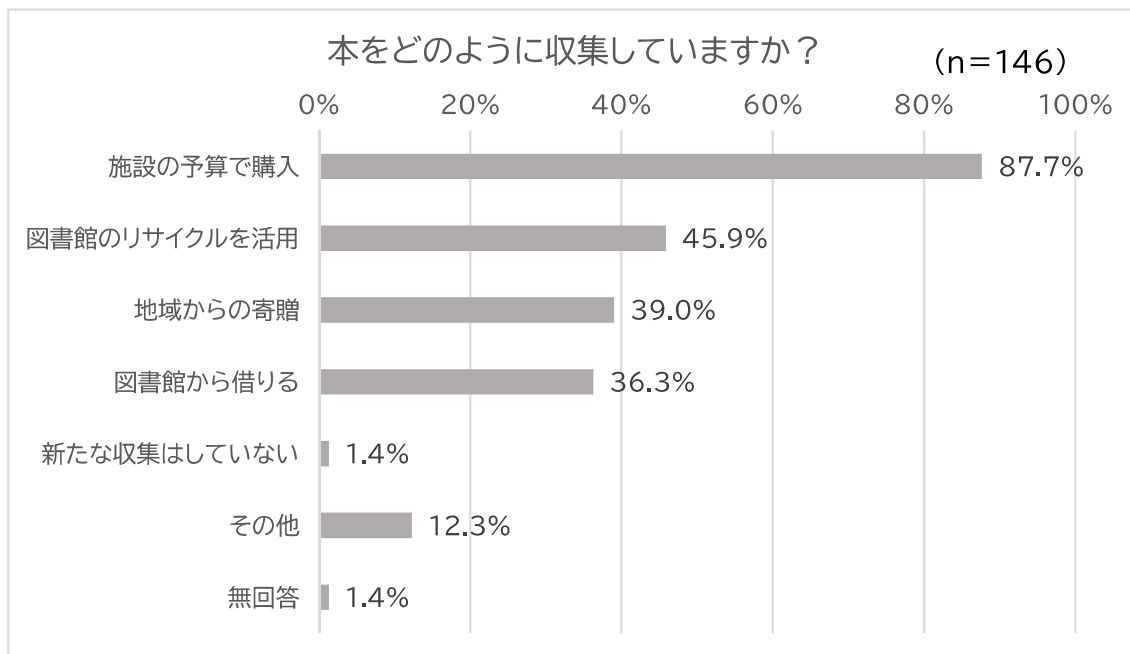
(6) 図書室・図書コーナーで読まれている本のジャンル

「絵本」と回答した施設が最多であった。その他、「事典・図鑑」と回答した施設が、全体の半数以上あった。



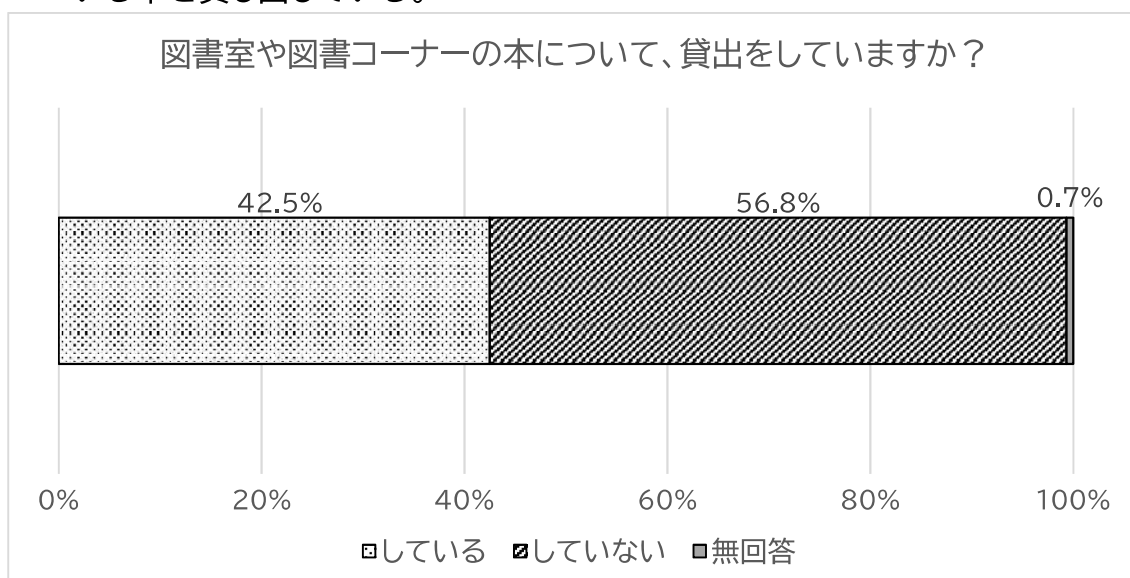
(7)施設における本の収集方法

80%以上の施設が「施設の予算で購入」と回答した。その他の収集方法としては、いずれの選択肢も40%前後の割合であった。



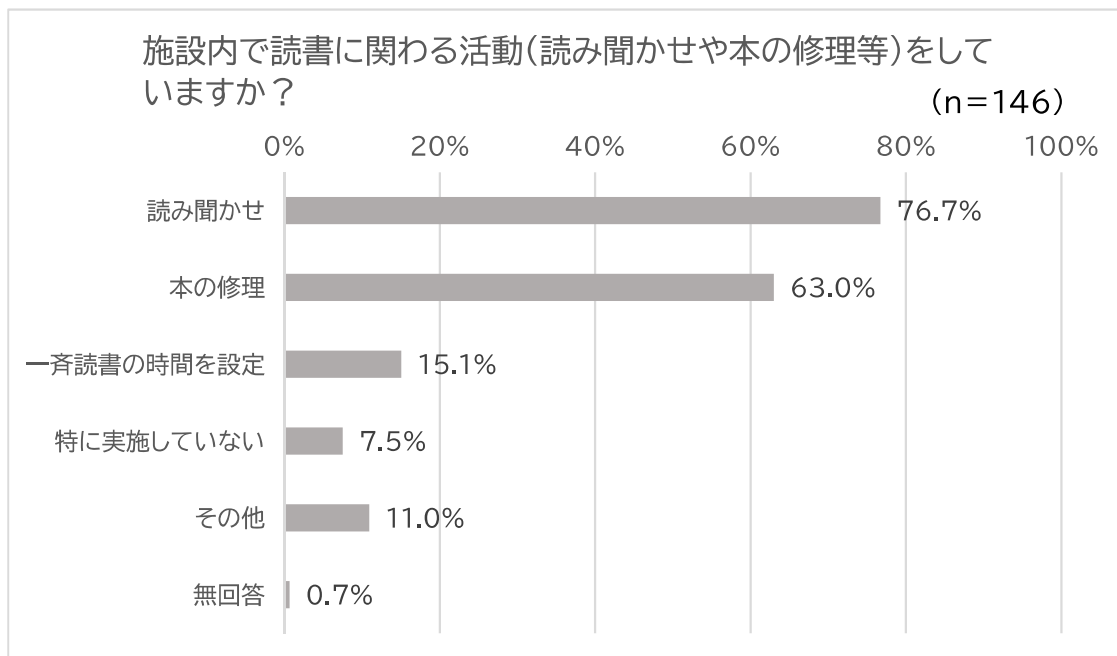
(8)所蔵している本の貸出実施の有無

半数以上の施設は貸出を実施していない一方、40%以上の施設で所蔵している本を貸し出している。



(9)施設内での読書に関する活動状況

75%以上の施設で「読み聞かせ」を実施しているほか、60%以上の施設で「本の修理」を実施している。

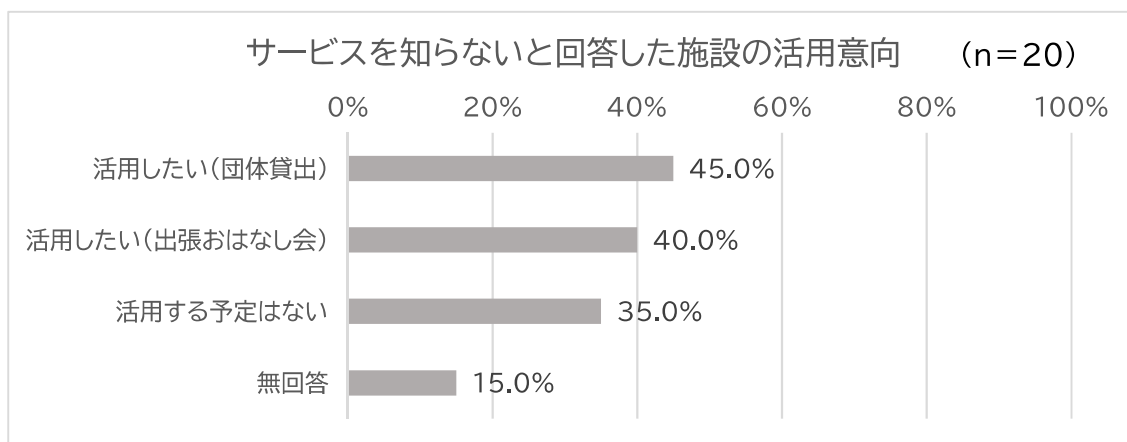
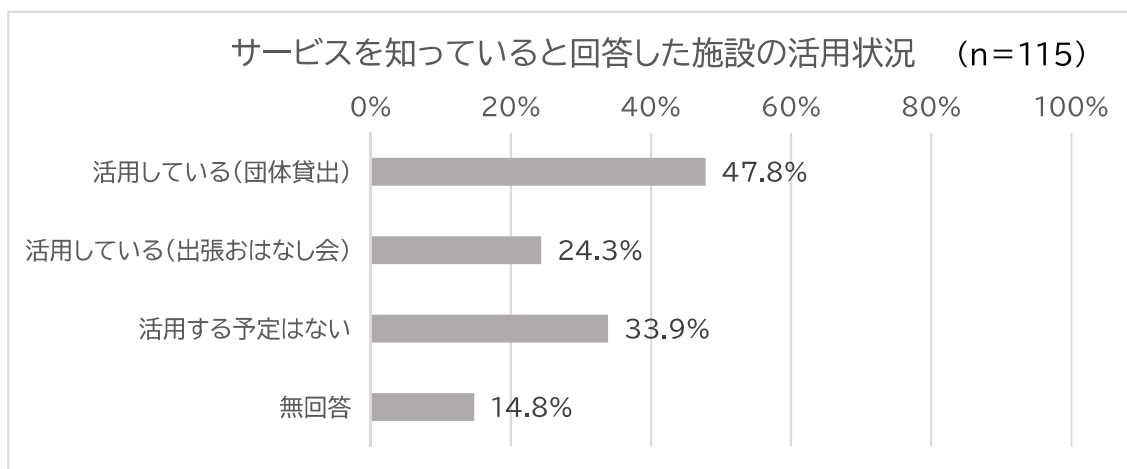
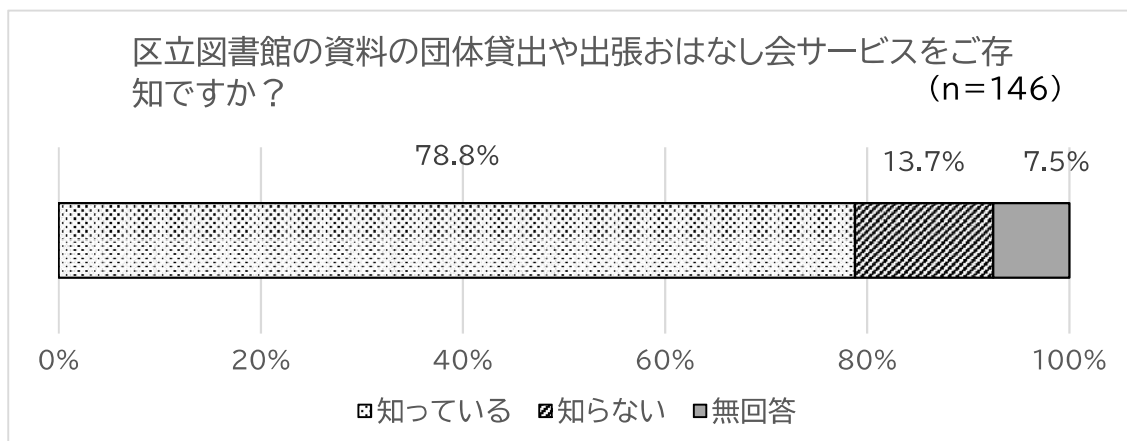


(10) 区立図書館の団体向けサービスの認知度

75%以上の施設で、サービスについて「知っている」との回答であった。

「知っている」と回答した施設が最も活用しているサービス、「知らない」と回答した施設が最も活用したいサービスは、いずれも「団体貸出」であった。

一方、「知っている」と回答した施設、「知らない」と回答した施設のいずれにおいても「活用する予定はない」との回答が30%以上あった。



(11) 区立図書館に望むこと

「除籍資料の提供(リサイクル)」が最も多く、約半数が望んでいる。その他、「読み聞かせボランティアの派遣(出張おはなし会)」、「図書資料の提供(団体貸出)」といった回答が30%以上の施設であった。

